

勝連：漁期は8月～12月、漁場は中城湾の平瀬～泡瀬・ホワイトビーチ周辺海域、浮原島周辺海域・金武湾の照間の沿岸、ニシノ岩周辺である。

② イカ曳

漁期は10月～4月、漁場は糸満では、糸満～喜屋武にかけての水深5m以浅海域、中城湾では泡瀬南側海域、津堅周辺、浜比嘉島周辺の水深5m以浅海域である。

③ 建干網

漁期は周年、漁場は各地先沿岸の水深3m以浅海域である。

要約

- (1) アオリイカの産卵期は、2月下旬～10月下旬と推定された。
- (2) 生物学的最小型は季節により変化し、雌は春期には背套長21.5cm、夏期には11.0cmである。
- (3) 産卵場は、知念の南側海域、泡瀬～勝連半島の海域、金武湾の天願川沿岸海域である。その他、波静かで、潮流の弱い水深10m以浅の海域なら、どの海域でも産卵する。
- (4) 産卵基質は、平らなサンゴ礁の下面、海藻、イソバナ等である。ホンダワラ属の藻類は好適な産卵基質の一つである。
- (5) 1個体の産卵数は、卵のう数で51～581、推定産卵数は153～1,743個であった。
- (6) 幼稚仔の分布域は産卵場海域とはほぼ類似するものとみられる。
- (7) 发育段階別及び季節的な浅深移動はみられない。昼間と夜間の浅深移動はかなり明確である。
- (8) アオリイカの成長は、フ化後1ヶ月目に30mm、2ヶ月目55mm、3ヶ月目75mmであった。1年間での成長は、最大40cm前後・体重1.5kg前後と推定される。
- (9) 背套長63mm～315mmの範囲の餌料生物は魚類主体であり、体長による餌料生物相の変化及び季節的な変化はみられない。魚類以外には、長尾類、頭足類、貝類、ジャコ類が僅かに出現した。
- (10) 沖縄県に於ける総漁獲量は昭和45年に147トン、46年190トン、47年は129トンと減少した。漁獲量では下位に位置するが、漁獲金額では、マチ類・タイ類・タカサゴ類に次いで上位にランクされる。また単一種としては、1、2位に位置するものと思われる。
- (11) 海域別漁獲量をみると、中城湾・金武湾で31.8%で最も多く、次いで県北部20.2%、県南部18.6%、八重山17.1%、宮古10.1%、県中部西側海域2.3%となっている。中城湾での漁獲量は全沖縄のアオリイカ漁獲量の約4分の1以上を占める。
- (12) 糸満・勝連・那覇地区漁協の総漁獲量と業態別漁獲量を図-10～図-13に示した。

§ 参考文献

- ① 崔・大島：アオリイカの発生と稚仔の成長 VENU S : 21(4)1961年
- ② 伊野波盛仁：アオリイカの養殖試験（くろしお 1965年）
- ③ 琉球水研報：アオリイカの養殖試験 1967年
- ④ 加賀吉栄：北部海域におけるスルメイカの分布と移動回游について。漁業資源研究会議報 1971年
- ⑤ 水産業改良普及室：アオリイカの稚仔の孵化飼育について。（ガリ刷り）1974年